



THE整形内科

白石吉彦 [ほか] 編集. -- 南山堂, 2016.

ISBN: 9784525205010

REVIEWER

医学研究科 社会健康医学系専攻
M1

痛っ！足挫いた。そうだ、帰りに内科に行こう。

「THE整形内科」という印象的なタイトルが目を引きまます。たしかに脳にも心臓にも胃腸にも肺にも内科と外科があるのに、運動器には内科がないのは不思議です。

本書は「運動器の痛み」の内科的治療に関する本です。西洋医学から代替療法まで診療のいろはから疾患各論までが網羅されており、1冊読むだけで「運動器の痛み」診療の歴史や背景から診療の基本までが身に付きます。具体的には、外来処方（漢方も含む）、注射、外固定、鍼やセルフケアなどについて豊富な画像や例を交えて実践的に記されており、靴やメガネの正しい装着について触られているのには驚きました。とくにエコーの効果について強調されています。エコーには他の画像検査とくらべ

1. 動的な画像が得られ、軟部組織や血流の評価に優れる
2. その場で情報が得られ、それを患者と共有できる
3. 放射線被曝がない

などの利点があります。掲載されている多くの明瞭な画像をみると、「エコーなんか役に立たないだろう」と軽く考えていた自分が恥ずかしくなりました。やや物足りなかったのは、実際の臨床医の視点からすると各論が浅い点です。かえて非専門の読者には敷居が高くなって良いかもしれませんが、今後の期待も込めて評価は星4つとしました。

(裏へ続きます)

493

6

Sh 82

医図開架

⇒⇒⇒

世界でも類をみない高齢化社会の到来により「運動器の痛み」が日本社会に与える影響は甚大です。クリニックを訪れる患者のどのくらいが「腰痛」「肩こり」「関節痛」を主訴に来院するでしょうか。そしてそのうちどの程度が内科的に治療されるでしょうか。あまり重きを置かれていませんが、実は内科的治療の意義は非常に大きいのです。

本書は整形外科医だけではなく、「運動器の痛み」にかかわる全ての医師のほか、理学療法士、作業療法士、鍼灸師など様々な職種に有用な情報をもたらしてくれます。また医療に関わるあらゆる人間や患者にとって、実は身近な「運動器の痛み」の診療についての現状を知るいい機会になります。駄文にお付き合いいただいた貴方、本誌を手にとって損はないと思いますよ！

受理：2017-12-25